

令和6年度第1回いしかり生きものかけはしプラン有識者意見交換会

(議事録)

日時: 令和6年7月22日(月) 14:00~16:30

場所: 石狩市役所2階201会議室(オンライン併用)

出席者: <委員>

松島 肇 (会長) (北海道大学大学院農学研究院講師)

長谷川 理 (副会長) (特定非営利活動法人 EnVision 環境保全事務所)

赤坂 猛 (一般社団法人エゾシカ協会理事)

立木 靖之 (酪農学園大学環境共生学類准教授)

徳田 龍弘 (北海道爬虫両棲類研究会副会長)

欠席者: <委員>

安細 元啓 ((株)野生生物総合研究所)

事務局: 環境市民部 自然保護課

時崎宗男(部長) / 佐藤光弘(主査) / 佐藤美弘(主任) / 高橋恵美(主任)

【事務局】

ただいまから、『令和6年度第1回いしかり生きものかけはしプラン有識者意見交換会』を開催します。本日は、お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

事務局の石狩市環境市民部自然保護課 主査の佐藤と申します。どうぞよろしくお願ひします。人員も新たになりましたので、事務局の紹介をさせていただきます。また、本日所要により課長が不在となっております。

部長→主査→主任

開会に当たりまして、事務局を代表し環境市民部長の時崎より一言ご挨拶を申し上げます。部長→主査→主任

(部長挨拶)

日頃より当市の自然保護行政にご協力いただきありがとうございます。3年前に自然保護課長で関わった時に比べ、内容がブラッシュアップされた印象を受けました。引き続き、ご

協力をお願いいたします。

時崎部長におきましては、公務の都合上ここで退席いたします。

本会議は議事録作成のため録音させていただいております。議事録につきましては、でき次第共有させていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、以降の議事進行につきましては、松島会長にお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

議題1) 今後のスケジュール共有について (資料 1-1)

- ・ 10月の環境審議会で答申をいただき完成を目指して進める
- ・ 市民に意見を聞く場として8月27日(火)15時より石狩市民図書館にて、「いしかり生き物かけはし座談会」を開催し、一般市民、農業者、市内企業に対して参加を募り、他分野での生物多様性保全の意見を伺う場とする。

【長谷川委員】

公開のタイミングでのイベントなのか。完成した後でもよいのでは。参加した人しか意見を出せないのか。

【事務局】

まだ内容を詰めている段階なので、アンケートなどの手法について相談してみます。

【長谷川委員】

前回のようなパブコメだと、時間をかけて読むことができますが、今回はそうではない。事前に資料を配布するとして、いつ頃からでしょうか。

【事務局】

今回のイベント自体は8月から市内の広報紙や、市内の教育機関。活動団体等にお声かけをします。当日紹介する資料については、現在関係課に意見を同時に聞いているところで。委員の皆さんにも本日から8月12日ごろまでご意見を伺い、その後修正してお披露目となりますので、余裕があるとは言えません。

【長谷川委員】

北海道で実施したときを踏まえると、1週間くらい前に資料を配布し、2～3時間で意見交換をするものでした。今回は最低限の質疑応答に思えるので、より深く読んだ人からの意

見をもらうには別に設ける必要があるのではと思います。事後アンケートなども取り入れて、参加できなかった人を考えると、後日に意見を聞くことはできるのでしょうか。

【事務局】

8月27日はほぼ完成したものとしてお披露目をする予定です。修正を全くしないということではないので、9月までくらいは修正が可能かと考えています。

【松島会長】

市民周知とiiつつ参加者の定員が20名については少ないのではないか。シンポジウムの広くやる部分と、ワークショップなどの20名に絞った2段階での建付けができるのではないか。終了後に動画を配信して周知を広めることはできないか。また、27日までの完成版はWEB上に公開するのか。当日聞いた内容に対してワークショップをするには慣れていない人は難しいのでは。

【長谷川委員】

今回のワークショップであれば、かけはし戦略が答申を受けてから続けてもよいのではないか。スケジュールから切り離して、今後かけはし戦略を利用していく市民や民間と考えることは大切だと思います。このタイミングでは、中身の話を必要としている段階ではないかと思ひます。

【事務局】

松島委員のご意見にありましたオンラインというのは、水面下ですが話をしております。今後生物多様性地域戦略の策定を考へている自治体や興味のある方が、会場に参加できなくても興味のある方もいるかと思ひますので、その点に対する対応は考へております。

また当日の参加ですので、発言もしにくい部分はあるかと思いますが、参加者の所属で生物多様性を広めるにはというピンポイントな話題でお話を絞る形を考へています。

座談会については、今後も継続して開催する方針ですので、継続したご意見を受ける場は設ける考へております。

【松島会長】

ある程度、絞って参加者を募ることもあるかと思ひますので、参加者の方がパネルのような役割を担っていただき、その立場から期待すること、こんな風に使ってみたいというご意見をいただくのであれば座談会という形はよいかと思ひます。事前に資料を渡して見ていただくのも一つの手ですね。あとは、課題より期待、こういった使い方をしていこうという方向に向かうのが良いかもしれません。

【長谷川委員】

北海道ではもう少し早い段階でのワークショップでした。完成に近いタイミングでの意見交換は、パブコメに近い形での意見交換をした方が良いと思います。その後に、いつ改定するか、修正が加わるかということにつながってくるのではないのでしょうか。

【松島会長】

現段階で可能な限りの意見を取り入れていただければと思います。パブコメは一度実施していますが、それに対する意見もあると思いますので、記録として残しておき、いつかのタイミングで取り入れられるようなことも検討してはどうかと思います。

それでは次の審議に移ります。

議題2) 骨子案について (資料 2-1/2-2)

- ・ 3月から大幅に変更している
- ・ 特に第2章についてはかなり修正が入っている
- ・ 第5章についても書き加えている
- ・ 遺伝子の多様性部分については、内容を今一度確認いただきたい
- ・ 現在、関係課に合議をお願いしている
- ・ 環境基本計画に合わせて2030年に中間見直し、2040年为目标達成年としている

【赤坂委員】

第1章の内容が、第4章に分けられましたがそれによってタイトルが少し適していないと思います。

【事務局】

タイトルを「はじめに」、あるいは1.1の小タイトルになっている「いしかり生き物かけはし戦略策定の背景」に修正したいと思います。

【赤坂委員】

第一章の中で「過去50年」「2010年から2015年」「1870年代」など表現がそろっていない。1870年代は1970年代の間違いでは。また、和暦と元号がそろっていないので、いずれかに統一したほうが良いと思います。

【事務局】

年代については、引用文献を確認します。西暦と和暦ですが、第2章2.4で歴史的な話の

中で和暦と西暦を併記したほうが、理解がしやすいという意見から取り入れたものになります。

【徳田委員】

西暦と年号を併記するのは採択など決まった年があるものについては標記して、年代などはわざわざ書かなくても意味が分かれば、なくてもよいのではと思いました。

【長谷川委員】

政策的な施策などに対しては西暦と和暦を併記して、ほかは書かないようにしたらよいのではないのでしょうか。

【松島会長】

正誤も踏まえ、全体を見て統一させましょう。最初の冒頭について、モントリオールで何が採択されたのかということがないので、具体的な記載があった方がいいと思います。生物多様性の低下、劣化しているということで止めてもよいのではないのでしょうか。ほかに、30by30、OECM などが必要とされていることを書いてはいかがでしょうか。

【立木委員】

第3章の3.3

- ・タヌキと混同あり→一部タヌキと混同あり
- ・捕獲数は年々上がっていますが、→増加していますが

第3章の3.4

- ・ダニ類の吸着により伝播する感染症の追記
- ・エゾシカ関連交通事故件数の2023年の追加

【事務局】

ご指摘の件について、修正、追記させていただきます。

【赤坂委員】

第2章2.1について、景観の多様性は生態系の多様性ではなく、あえてなのか。もし景観を使うのであれば、説明がないとわかりにくい。

【松島会長】

- ・2.1 景観の多様性 → 2.1 生態系の多様性に修正
- ・本文中の景観はそのまま

【長谷川委員】

できればもう少し里山、湿地へのボリュームを増やすことはできないか。

【事務局】

石狩市の湿地については、細かい名もない湿地が多い印象。

【松島会長】

札幌を含めた一帯が湿地帯、現在はほとんどない。それくらい少なくなった湿地だから貴重であることを追記できないか。

【長谷川委員】

アカモズも出てくるので、その話は必要であると思う。あとは草地も追加できないか。

【松島会長】

海浜のところで草原の話が出てきている。草地として個別にしてもよいかもしれない。

【赤坂委員】

里山についての説明は、何かの引用か。引用であるならば、出典を書くべき。また、図2-1の判例について教えてほしい。

【事務局】

環境省の引用です。（環境省ホームページ

(<https://www.env.go.jp/nature/satoyama/top.html>)

凡例について、オレンジ色の国有林が民有林の間違いです。訂正いたします。

【長谷川委員】

図2-1について、この場所に必要なのでしょうか。森林や湿地を入れるなら別ですが。

【事務局】

前回、必要ではという意見で今回追加しました。

【松島会長】

パブコメでもそういった指摘があった記憶があります。

【長谷川委員】

バランスを考えて、石狩川やマクンベツ湿原などの地図を入れてもよいと思います。シラツカリ川とか、国定公園など。

【松島会長】

青になっている部分については、これから写真を追加するという認識でよいでしょうか。

【事務局】

追加していきます。

【徳田委員】

かけはしコラムの遺伝子の多様性について、遺伝子の変化というよりは、違いくらいのほうが適切かと思いました。委員の皆さんいかがでしょうか。

【松島会長】

突然変異などの変化もありますが、違いでよいと思います。

【事務局】

2.3 遺伝子の多様性についての表現を今一度、皆さんのご意見伺いたいと思います。

【徳田委員】

「亜種アカモズは日本で繁殖するために適した形態」という表現について、アカモズが何か目的をもって形態を獲得したような印象を受けました。

【長谷川委員】

この章では、石狩市のお話を書きたいですね。遺伝子の何が違うかわからないですし。地域別個体群として保護していきますという書き方でよい気がします。遺伝的な多様性があることで、環境変化や感染症の耐性に強いなど、飼育下だけで飼育してもよくない、色々な個体がいるから、色々な遺伝子を持っている野生の種をそのままの状態で維持していくということを書く必要があると思います。

【松島会長】

ハマナスを事例にすると、自家不和合性で他家受粉でないと受粉されませんが、種間交雑をしやすいので園芸種が近くにあると野生のハマナスの遺伝子汚染が起きてしまいます。野生の遺伝資源を守ることに配慮しなくてはいけないということ、書いていただけるといいかなと思います。

【立木委員】

私が行っていたマレーシアでは、保護区と保護区が孤立して、保護区中でゾウが季節移動できなくなって、遺伝的な多様性が失われていくというような議論がよくされています。保護区と保護区をつなぐとか、個体層を適正に管理するとか、コネクティビティの話とをよくしていました。景観の話と混同しないようにした方が良いでしょうが、委員の方々が言われていたように、希少種がいるような環境、利用できるような状況を続けていくとか、種として独立しているならば全体を保全していくとか、そういうようなことを書くといいと思いました。

【赤坂委員】

第3章3.4でエゾシカとエゾヒグマとありますが、ヒグマの表現で統一してはいかがですか。

【徳田委員】

3.2 希少種でシロマダラについて、“北海道では”発見例が少ないので、“北海道では”と入れていただいて、幻は誤解を招くので取っていただけると。

【事務局】

ヒグマの統一と、“北海道では”を追記、幻は削除します。

【立木委員】

3.4のトドについて、絶滅の危険のあることから/強制を目指しますという表現に違和感を感じます。

【赤坂委員】

絶滅の危険という表現は過剰な気がしています。水産庁が駆除数を決めているので。

【長谷川委員】

アザラシについてはいかがでしょうか。具体的な種名を入れたほうが良いのでしょうか。

【事務局】

鳥獣被害防止計画ではアザラシ類となっています。

【長谷川委員】

そうであれば、生物多様性地域戦略の表現としてはトドなどでとどめておく方が良いと思います。全体的な話ですが、3.4について、交通事故・農業/直接的な影響・農業/感染症/水産業と統一性がないように感じるので、並び替えの必要があると思います。

3.6について、458行目の部分は影響があると書いておく必要があると思います。5.6で課題となっていますという表現部分は3.6に入れ込む。ガイドラインやゾーニングの活用が足りないように思うので、それも課題としてだしておく。あとは、ソーラーパネルについては、石狩市は問題になっているのだろうか。

【事務局】

そこまで市が把握しているわけではないが、増えてはいる。

【長谷川委員】

石狩市はこれまでも環境審議会等で、風発に関する議論を続けています。課題として書く必要がある。もし、それでも関係課が削除してほしいとなったとしても、議題として挙がっ

たことは議事として載せてほしい。環境審議会でも風発の問題を受けて、市長選のテーマにも出たくらいなので。

自然エネルギーは脱炭素の戦略として必要ですが、生物多様性の損失については問題になっているので課題として表現し、課題を解決するための適地導入や、開発に関して避けてもらうとか明記してほしい。その文章がなくなったとしたら、どの部分で削除になったのか、座談会みたいところで説明してほしい。

【松島会長】

気候変動対策は間違いなく必要で、石狩市の自然エネルギーへの期待も高いし、現実的に頼らなくてはならない状況。一方で生物多様性を損失してはいけない、損失を回避するような手法を考えてもらう。そういったことをする企業も出てきているので、それこそ3.7でTNFDが出てきていますが、そういったことが評価される時代なので、そういった市内企業を増やす方向性を書いてほしいです。

【長谷川委員】

4.1に出てくるカーボンニュートラルについては、3.6でよいのでは。4.2の位置づけを基本方針に盛り込んで、大きな生物多様性保全の目的と、それにつながる目標が見えるように並び替えをお願いしたい。

【立木委員】

4.4について、鳥獣被害、餌付け問題と明記しているが、餌付け問題も鳥獣被害に含めてよいのでは。より単純化したほうが良いと思います。

【事務局】

含めた表現として鳥獣被害のみに標記をします。

【徳田委員】

767行目に外来種の防止という表現があるのですが、発生の防止等の表現のほうが適しているような気がします。また関わっている中で、オタマジャクシをほかのところに放すことで、飼育をしなくても他の場所に広げてしまうケースが散見されるようになってきました。そういった表現もいれてもよいかもしれません。トノサマガエルが突然現れたり、離れた個体群が発生することが起きています。釣り堀屋さんが配ることもあるみたいです。

【事務局】

実際に、そういった報告を受けたこともあるので、その表現は追加しようと思います。

【長谷川委員】

5.1 について、景観の保全をするということをどこかに入れられないか。どこに標記するのが良いかわかりにくい。

【松島会長】

5.1 の最後はどうか。

【立木委員】

コラム的な話として、湿地について書くことでわかりやすくなるのでは。

【松島会長】

生物多様性の保全上重要な地域という表現は、環境省の指定している地域のことか。

【事務局】

注目種のような形で、本戦略で位置づけています。それに位置づけている地域のアクションプランを作るという形の流れで、地域・希少種・外来種に対して作成しています。

【松島会長】

表現の工夫は必要かもしれませんね。混同しそうです。

【長谷川委員】

地域の面的な場所を保護することが、希少種や多様性の保全だと思うので、各地域の環境要素を守っていくと表現はどこかでできないか。あとは、自然再生の取り組みについても、各景観の再現について、復元などもどこかに入れられないだろうか。

【事務局】

聚富地区で実施している再生試験などがかけると思う。少し精査してみる。

【赤坂委員】

推進体制について、国の所管ではなく管理が適していると思う。

【長谷川委員】

北海道と地方公共団体との書きぶりがこれでよいのか気にはなる。教育機関など、連携していく主体はほかにある気がするが。あとは関わりが薄いように感じる。

最近、生物多様性に関する企業からの支援もだいぶ進んできている。今は 5.6 や 5.7 で触れているが、5.1 で市有地の OECM 登録を促す、それに向けた資金援助のようなことも検討していくことはできないのか。

【松島会長】

時間が超過しておりますので、引き続きご意見については 8 月 13 日までに事務局にメール等でお知らせいただければと思います。

【事務局】

本日は長時間にわたり、ご意見賜りありがとうございました。議事録については、完成いたしましたら、皆様に共有させていただきます。

本日はありがとうございました。

令和 6 年 8 月 20 日

いしかり生きものかけはし有識者意見交換会

議事録を確認しました。

会長

松島 肇

